

ホルモン状態で「更年期」が一目でわかる！ 自分の尿から5分で測定、セルフ検査キットが登場



月経周期に影響を及ぼすエストロゲン（卵胞ホルモン）とプロゲステロン（黄体ホルモン）。この2大女性ホルモンをはじめ、5つのホルモンの変化を自分の尿から簡単に、約5分で測定できるデジタル検査機器が登場した。自分のホルモン周期リズムを知ることによって、ライフステージに伴う女性特有の悩みや症状をセルフチェックすることができる。セルフメディケーションを可能とする新しいアイテムだ。

5つのホルモン測定で4つの検査が可能

40代、50代の女性の多くが経験するほてりやのぼせ、発汗など。更年期症状かなと不安に思ったとき、客観的な情報があれば、適正なセルフケアや薬局、医療機関への相談にもつながるのではないだろうか。

女性の健康課題が取り沙汰される中、女性自身も症状への理解が十分でなく、周囲にも打ち明けられない＝我慢してしまう、という状況は、1つにこの「客観的な情報」が手元にないことに起因しているのではないだろうか。

「FSHホルモン検査」「エストロゲンとプロゲステロンの測定」に応じた検査スティックを使用し、1つの検査デバイスで、約5分で測定できる。スマホのアプリと連動し、測定結果はグラフで表示される。使い方は動画と音声で説明され、初めてでもスムーズに体験できる。

[👉次頁につづく](#)



医療・介護製品や環境・エネルギー、通信など幅広い分野で、輸出入業・製造を含めた事業展開をするシンセイコーポレーション（本社：東京都千代田区）はこのほど、女性ホルモンの周期リズムや特性が確認できるセルフ検査キット「SUREARLY」をリリース。オンラインでの販売を始めています。韓国ではすでに体外診断医療機器として取り扱われており、日本市場向けに同社がカスタマイズしたものです。

FSHホルモンによる更年期傾向の判定

FSH(卵胞刺激ホルモン)

FSHによる更年期傾向の確認



「SUREARLY」は4つの検査スティックと検査デバイス、スマートフォンアプリで構成される

4つの検査（「hCGホルモン検査」「LHホルモン検査」「更年期の状況を確認でき

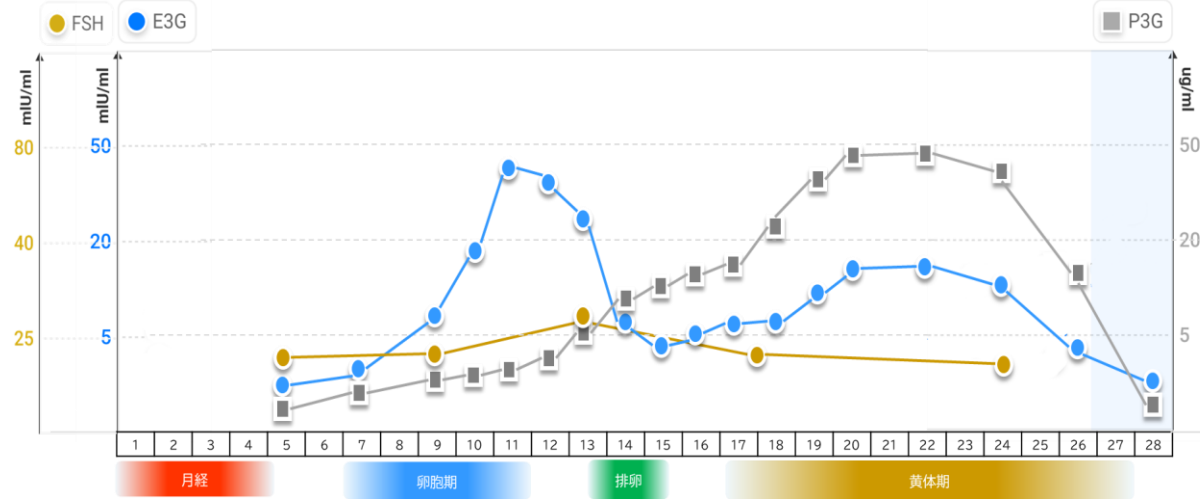
卵胞刺激ホルモンの分泌量で更年期を確認
機能性食品メーカーからも注目

例えば更年期の場合、20代、30代のホルモンバランスの取れた周期リズムと比べると、違いは明らかだ。

ホルモンバランスの取れた周期リズムでは、FSH（卵胞刺激ホルモン）の分泌量は低く安定して、あまり変動はない。一方、エストロゲンの分泌量が減ると、その分泌を促すFSHの分泌量が相対的に高まる。つまり、検査でこのFSHの測定値が高くなっていれば、「更年期」と自己確認できるわけだ。

2月、東京ビックサイトでの「Femtech & Mentech EXPO」で「SUREARLY」をお披露目した同社。常務取締役営業本部本部長の前島勲さんは、上々の反応とともに「機能性食品メーカーの方からの問合せも多くいただきました。服用前と後での女性ホルモンの変化を可視化できれば、より信頼性が高まると思います」と協業の手応えも示唆している。

一般的にホルモンバランスの取れた周期リズム
FSH（卵胞刺激ホルモン）の分泌量は低く安定



加齢に伴いE3G（エストロゲン）の分泌量が低下するため、E3Gの分泌を促すFSH（卵胞刺激ホルモン）の分泌量が多くなっている →更年期の可能性

